

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1090200179
法人名	社会福祉法人 二之沢真福会
事業所名	グループホーム ルネスふれ愛の家
所在地 (電話番号)	群馬県 高崎市 大八木町 512 (電話) 027-372-0017
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	平成21年2月6日

【情報提供票より】(21年 1月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	10 人
利用定員数計	9 人
	常勤 6人, 非常勤 4人, 常勤換算 5.6人

(2) 建物概要

建物形態	併設/ <input checked="" type="radio"/> 単独	新築/ <input checked="" type="radio"/> 改築
建物構造	木造 造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	<input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	<input checked="" type="radio"/> 無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名	
要介護1		名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名		要介護4	3 名		
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	87.8 歳	最低	79 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	二之沢病院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小規模多機能型施設が隣接しており、地域の人達が交流しやすいグループホームである。地域との関係を重視した理念が作られ職員はその理念に基づきサービスを提供している。利用者一人ひとりがそれぞれの役割を持ち一日を張り合いを持って生活している。介護される側・する側の垣根を越えた支援がなされている。自分が何かの役に立っているという気持ちが利用者の表情から察することが出来る。地域にグループホームを理解してもらいたいという管理者の気持ちが支援にも表れている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 当年度開設のため初回の外部評価である。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は自己評価について職員に配布し記録をしてもらっている。その時外部評価についても職員に説明を行っている。職員が作成したものを管理者がまとめ記録を行った。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に一度開催されている。家族や区長、民生委員、老人クラブ、地域住民(警察、消防署) 市職員などが参加して施設側からは役職等が出席している。地域の催物の情報交換があり、利用者は外出参加している。また介護者教室の案内を行っており地域の人の参加がある。災害対策には女性消防隊との連携が予定されている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 管理者は面会や電話等で家族に状況報告を行い、運営推進会議のときなど機を見つけては意見や苦情等を吸い上げたいとも家族に話している。そのために話しやすい雰囲気作りを行い、家族が施設に来易いように行事を作り誘っている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運営推進会議において地域の人達が情報を持ち寄ってくれる事により地区の行事参加が出来る。小規模多機能型も隣接しており、ここからも地域情報が入手できる。利用者は地域に受け入れられていて、「ふれあい芸能祭」では合奏で参加している。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設前に職員間で話し合い、理念を作り上げている。地域の中で生きる一人の「人」としての利用者の立場が揚げられている。理念は掲示されている。職員は名刺の裏にプリントされているので常に理念を考えながら働いている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は理念がホームの道しるべと考え職員間の共有を意識している。職員も取り組みに迷いが出た時など理念を振り返っている。		
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者は地域との交流を通しグループホームを地域に理解してもらおう努力を行っている。施設は介護者教室にもなり、開放されている。また自治会には隣接の小規模多機能型が加入しているので情報が得られる。地域の行事に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を理解している。自己評価は職員が作成している。期限を切り管理者がまとめ記録している。管理者は自己評価、外部評価について職員に説明をしている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一度開催されている。施設からは行事の案内、現状の報告などがされている。地域に向けては介護者教室も開かれている。来所に不自由な場合は家族を迎えに行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の更新申請の支援・運営推進会議の報告等で市に出向き担当者との情報交換を行っている。電話でも報告し、サービスの向上に結び付けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「ふれ愛の家便り」を家族に配っている。行事の案内や介護者教室の案内など参加を呼びかけている。金銭管理の報告時を含め面会時・電話等様々な方法で家族への報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見など言い易い雰囲気を作っている。面会時、運営推進会議のときにも意見を聞いている。作業をさせて欲しいと希望が出されレクリエーションに取り入れている(貼絵)。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員に異動があった時には利用者を紹介をしている。担当制を採用していて、利用者へのダメージを防ぐため職員と利用者がなれるまで気を配っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や内部研修があり管理者は職員を研修に参加させている。外部研修は交代で参加をしている。研修に参加した職員には研修報告してもらい研修内容は共有されている。地域密着型連絡協議会に加入している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会の開催する研修に参加したり、交換研修を受け入れたりしている。また西毛ブロック交流会に参加している。管理者は職員に施設交流を促している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に本人、家族に見学をしてもらい納得してから利用に結び付けている。入所したばかりの人に対しては個別の対応をしている。家族と連絡を取り今まで住んで居た家に行ったり、車で様子を見てもらったりもしている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の生活を通して過去の暮らしぶりや生活習慣の違いなど教えてもらっている。繭玉づくりなど、話をしながら支えあう関係が作られている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を聞きながら支援をしている。また家族からも面会時などに情報をもらい適切な意向の把握に努めている。発言できない人の場合には表情を観察し意向や健康状態などを汲み取っている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者は入所時に家族や本人より話を聞き意向を確認している。その後も会話の中や面会者などから趣味、職業などの情報を積み重ね意向の再確認を行っている。職員からも意見を求め介護計画を作成し家族の了解を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは6ヶ月毎に行われている。また随時の見直しもされている。モニタリングは2ヶ月毎に行われている。	○	利用者の現状の計画作成は毎月のモニタリングにより現状に即した計画の作成が出来るので1ヶ月毎のモニタリングをお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の買い物の支援、受診の支援など行っている。また家族が施設に宿泊できる支援もある。		
、					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望するかかりつけ医になっている。家族が受診支援できない時は受診の支援を施設がしている。家族・本人の希望があればかかりつけ医の変更が出来る。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者は家族の希望を叶えるよう重度化に対応したいと思っている。高度な医療の必要性が無ければ施設での看取りも考えている。	○	入所時に家族への説明はされている。今後は確認の意味も含めて文章化し、職員も意識を共有できるよう期待している。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入職時に管理者は職員に対しプライバシーについて教育をしている。日常的にも排泄、入浴時の声掛け、カーテン扉の開け閉めなど気を配っている。書類も保管されており職員は取り扱いに気を配っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり得意な事を生かした一日の生活を支援している。健康状態やその日の気分など察知して一律のケアをしないよう支援している。利用者はそれぞれのペースで生活を支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好物は入所の時やそのつど職員が把握をしている。行事食にも季節感や好物が取り入れられている。利用者は手作りのお菓子など職員と一緒に作り楽しんでいる。マグロの解体なども楽しんだ。職員も利用者も一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴したい人は出来る体勢にはなっているが決められた曜日がある。本人が希望すれば違う日に入浴できる。シャワー浴、清拭なども行われている。	○	週に2回・午後の対応となっている。利用者の入りたい時に入れる入浴の支援を工夫してもらいたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの身体状況により役割がある。縫い物、配膳、下膳、食器洗い、洗濯干し、掃除等がある。楽しみごととしてお花見、慰問、手芸、貼絵、手作りカレンダーで張り合いのある日を過ごしている。また気晴らしとしてドライブ、散歩、地元地域の催物などに参加している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域の行事に参加している。散歩や日光浴など日常的に行われている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設は開錠されている。管理者は施錠により利用者を与える精神的な苦痛を理解している。開錠する事によりいつでも外に出られる安心感を利用者へ解ってもらい、安定した生活環境を作りたいと思っている。また職員の観察力が鍵を掛けないケアには必要と考えている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年に2回の避難訓練を行っている。1回は消防署立会いで行われる。地区には女性消防隊が組織されている。運営推進会議で区長より連携を提案してもらったので今後女性消防隊との連携訓練を予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によりバランスを考えた献立が出来る。食事量のチェックがあり食事の形態も様々にある。目標の水分量も設定されていて摂取記録もある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は天井が高く明るい。テーブルは3箇所に分かれてセットされている。台所が共用空間に面していて料理の音や香りが楽しめる。居間にはテレビ、椅子、絵画など飾られている。また魚が飼われている。ポーチからは自然や花が楽しめる。木のぬくもりが感じられ落ち着くことが出来る。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の持ち物を持ってきてもらっている。テレビ、コタツ、ベッド、桐の箆笥、衣装ケース、鏡台、化粧品、棚、カレンダー、写真、絵など個性あふれる居室となっている。		